

4月

中海・宍道湖・大山圏域市長会設立

出雲市と米子市、境港市、松江市、安来市で構成する「中海・宍道湖・大山圏域市長会（愛称：だんだんサミット）」が4月1日に設立しました。この圏域は人口約66万人を擁し、日本海側有数の人口・産業の集積地となり、それぞれの魅力を活かしながら、「観光振興」「産業振興」「環境保全」を3つの柱に、一体的な発展を推進していきます。

4月

電気自動車急速充電スタンド運用開始



地球温暖化対策の一環として、電気自動車の普及に対応するため、道の駅「大社ご縁広場」に『電気自動車急速充電スタンド』を市として初めて設置し、4月27日に運用を開始しました。安心して観光してもらえるよう、24時間無料で使用可能です。

里見香奈女流4冠の活躍



ふるさと出雲市を拠点に、女流棋士界をけん引するとともに、プロ棋士(四段)を目指し奨励会での挑戦が続いています。女流棋士としては、タイトル総獲得数12期、11月には倉敷藤花戦で5連覇し、史上最年少でクイーンの称号を獲得、女流棋士界の歴史を塗り替える活躍を見せています。奨励会では現在初段、二段昇段に向けた戦いを繰り広げています。

7月
11月

もてなしの心醸成・神門通り一新 神話博しまね開催

- ◆古事記^{ふるきき}編纂1,300年を記念し、神話をテーマにした「神話博しまね」は、7月21日に開幕し、11月11日に閉幕するまでの114日間、開催されました。県立古代出雲歴史博物館駐車場を利用して作られた特設会場には、古事記の神話を題材にした映像を見せる「神話映像館」が設置され、また、「しまね魅力発信ステージ」では、県民を中心に延べ8,000人が733回にわたって伝統芸能等を披露しました。期間中の会場入場者は、73万人にもなり、「神話映像館」には21万人余り、隣接の歴史博物館へは、年間入場者数に匹敵する35万人が入場しました。
- ◆出雲大社の参詣道「神門通り」は、神話博しまねの開幕を前に、出雲大社勢溜前から一畑電車出雲大社前駅までの約330m区間の石畳工事が完了し、『神門通り』が一新しました。敷き詰められた石畳の裏には、観光客等も含め、約2,200人もの人が、メッセージを書き込みました。
- ◆出雲大社勢溜前に8月31日、「出雲大社正門前 ご縁横丁」がオープンしました。このご縁横丁には9つの店舗が軒を並べ、出雲の魅力を観光客だけでなく、地元の人にも伝えたいと、来店を呼び掛けています。
- ◆神門通りにある一畑電車出雲大社前駅の横に、トイレやベンチなどを備えた市民と観光客の休憩・交流場所として、「縁結びスクエア」が9月15日に完成しました。この施設は、レストランや出雲大社前駅ガラスハウスに隣接し、奥には日本最古級の電車「デハニ50形」が展示されています。
- ◆観光案内所「神門通りおもてなしステーション」が10月3日、オープンしました。ワークショップで、デザインや機能を検討し、館内から道に出て接客してもらおうと、カウンターなどをなくしたのは、ワークショップの中で出てきたアイデアです。

できごと なことがありました



4月

出雲市大社水産物荷捌所オープン

大社漁港内に「出雲市大社水産物荷捌所」が完成し、4月1日にオープンしました。山陰で初となる衛生管理型施設として整備した荷捌所では、取り扱う水産物の衛生管理を徹底し、皆さまに安心安全な水産物を提供するとともに地産地消の推進を図ります。

4月

総合医療センターが開設60周年記念式典



昭和27年に平田町ほか4村の組合立平田博愛病院として開設された「出雲市立総合医療センター（灘分町）」が、開設60周年を迎えました。平成21年からの施設整備事業も完了し、4月から新たに就任した病院事業管理者のもと、「市民に信頼され、地域と共にあゆむ病院」を目指して予防、救急医療からリハビリまで幅広く取り組んでいます。



8月

陸上全国大会で活躍

神奈川県横浜市で、8月24日から25日にかけて、「日清食品カップ第28回全国小学生陸上競技交流大会」が行われ、出雲陸上教室の錦織彩夢さんが「女子6年100m」で、日本一に輝きました。「男子4×100mリレー」では、(中島竜紀君、平岡紀彦君、三原康平君、今岡爽君、須田和真君)のチームが、7位に入賞しました。

8月

三木拓也選手
ロンドンパラリンピック出場

出雲市出身でロンドンパラリンピックに車いすテニス競技の日本代表として出場した三木拓也選手は、シングルスでは一回戦敗戦するものの、ダブルスでは8位入賞を果たす大活躍を見せてくれました。

10月

横見埋没林公園オープン

7万年前の三瓶山の噴火によって埋没した樹木を保存・展示する施設として、出雲市横見埋没林公園が佐田町上橋波に完成しました。公園には説明看板や樹木レプリカ2基を設置し、展示棟には保存処理した埋没林2本や樹木レプリカ1基、珍しい雨の化石も展示しています。市内からは国道184号線を志津見ダム方面に向かい、上橋波トンネルの手前を左折400mのところ展示棟があります(横見公民館の隣)。

10月

「出雲ブランド商品」認定



市の産業振興や知名度向上を目的に、全国、全世界に流通するに値する、オンリーワンまたはナンバーワンの「出雲ブランド商品」を募集し、10月26日、6商品を認定しました。今後、認定された商品は、商品中に「出雲ブランドロゴマーク」や「出雲」と表示することにより、全国展開されます。

市の産業振興や知名度向上を目的に、全国、全世界に流通するに値する、オンリーワンまたはナンバーワンの「出雲ブランド商品」を募集し、10月26日、6商品を認定しました。今後、認定された商品は、商品中に「出雲ブランドロゴマーク」や「出雲」と表示することにより、全国展開されます。

11月

“国富中村古墳”国指定史跡に

国富町にある国富中村古墳について、国の文化審議会が11月16日、国史跡に指定するよう文部科学大臣に答申されました。この古墳の埋葬施設は横穴式石室で、その保存状態が良く、石室内は、未盗掘の石棺が二つあり、蓋石などの破損状況から、死者への「再生阻止儀礼」を行っていたことが分かっています。指定されれば、国史跡は、県内では50件目、出雲市内では11件目となります。

4月

デジタル式防災行政無線運用開始

佐田・多伎・湖陵・出雲南部地域で進めていた「デジタル式防災行政無線設備整備事業」は、佐田・多伎地域の整備が完了し、4月13日運用を開始しました。この整備で、双方向通信が可能となり、災害で孤立した場合でも情報の収集や伝達を行うことができ、高速データ通信や映像通信など情報収集の多様化にも対応できるようになります。なお、湖陵・出雲南部地域(上津、稗原、朝山、乙立)は平成25年4月から運用を開始する予定です。



9月

出雲市生まれの“トキ”佐渡で飛翔



提供：環境省

国の特別天然記念物トキの野生復帰を目指し、環境省は9月28日から10月1日、新潟県佐渡市の佐渡トキ保護センター野生復帰ステーションで17羽(雄3、雌14)の放鳥を行い、出雲市トキ分散飼育センターで生まれた4羽のトキが初めて佐渡の空に飛び立ちました。

2012年
平成24年主 な
この一年、いろいろ

11月

出雲市総合振興計画「出雲未来図」

6月26日、市民30名による出雲市総合計画審議会(江田小鷹会長)に対し、新たな市の総合振興計画の策定について諮問し、11月12日に答申がありました。この総合振興計画は名称を「新たな出雲の国づくり計画『出雲未来図』」とし、これから10年間のまちづくりの指針として策定するものです。将来像に「げんき、やさしさ、しあわせあふれる 縁結びのまち 出雲」を掲げ、その実現のための基本理念、基本方策、戦略プロジェクトを示しています。

11月

福島県伊達市と災害応援協定締結

11月13日、福島県伊達市と「大規模災害時における相互応援に関する協定」を締結しました。この協定には、いずれかの市が大規模な災害に見舞われた際の、被災者の一時的な受け入れや救援物資の提供などを盛り込みました。東日本大震災時、伊達市の工業団地内には榊島根富士通(斐川町)の姉妹工場である富士通アイソテック(榊)があるなどの「ご縁」があり、市では市民の皆さまからの心温かい救援物資を10トントラック2台分輸送しました。また、市職員を2名派遣するなど、伊達市の復興に協力をしています。市はこれまでに、三市友好姉妹都市として提携している岡山県津山市と長崎県諫早市、奈良県桜井市、大阪府豊中市の4市や山陰の12市とそれぞれ災害時の相互応援に関する協定を結んでおり、今回で5例目となります。